

「伝える広報」から 「伝わる広報」へ

議会広報編集特別委員会

委員長 吉田 芳春

全国町村議会議長会の主催で、平成27年10月20・21日の2日間、東京・砂防会館別館において議会広報紙の発展に資することを目的とした「平成27年度町村議会広報研修会」が開催され、全国から1000人を超える議会広報編集委員（議員）が参加し研修会が行われた。

研修会1日目は、「伝える広報」から「伝わる広報」へと題して広報コンサルタント・小田順子氏。また、思わず手にとる読みたくなる議会だよりを目指して（一財）地域活性化センター広報室長兼月刊「地域づくり」副編集長・畠田千鶴氏からそれぞれプロのノウハウを教授してもらった。

研修会2日目は、議会広報サ

ポーター・芳野政明氏から優良議会広報クリニックスが行われ、優良議会広報クリニックスでは、優秀賞の鳥取県大山町議会と最優秀賞の山形県川西町議会の作成者が編集方針等について説明し、講師とみんなで良い点、改善点について共有化を図った。



平成27年度 町村議会広報研修会

全国町村議会広報研修会場

年々向上してきた全国の議会広報紙であるが、「もつと見やすく、もつとわかりやすく」住民へ伝える心構え等についても講評があった。

研修所感

私たち7名の委員が当委員会のメンバーとなり、議会だよりの編集・発行に携わって1年が過ぎた。年4回ある定例会終了ごとに、議会だよりを作成することになっている。現在までに5回発行した。

この度の研修会では多くのことを学び、多くの気づきを私たちにもたらしたのではないかと思う。また、自分の意識の低さに気付かされた研修でもあった。

開かれた議会、行動する議会、提案する議会を目指し、議会の活動内容や行政に係わる問題などに関して、できるだけ「親しみやすく、わかりやすく、読みやすい」ということに力点をおき、紙面づくりの原点に立ち返り、住民に開かれた読みやすい紙面づくり・わかりやすい記事と見出しの付け方についての講



研修会に参加の委員

演があり、大変有意義な研修であった。

結論は、如何にして「町民の皆さんに読んでもらえる」議会広報紙を作るかである。即ち、議会だよりを「手に取って見てもらえるか」にかかっている。

今回の研修会で学んだ様々な手法と表現力などで、更に住民の皆さんに興味を持って見ていただけるよう、委員一同、これからも広報編集に取り組んで参ります。